

美々津中学校便り

6月号

文責：鈴木利明（校長）

コロナ禍の中、延期になっていた「東京オリンピック2020」がいよいよ開幕します。スポーツの世界、それもトップクラスにもなれば、注目される頻度も違ってきます。しかし、どんなスポーツの大会であろうと勝負の世界ですから、必ず勝者と敗者が生まれます。そして、そこには、様々な力が関係しています。その力の中でもよく言われるのが「心・技・体」の3つの力です。この3つの力のバランスがとても大事なことだと思っていますが、心が最初にくると言うことも大事な事だと考えています。つまり「心が技術を超えない限りその技術は活かされない」と言うことです。きびしい練習の中で、技や体は鍛え方で、力が付いているのが見えてきます。しかし、心の精神面だけは、なかなか見えません。見えないからこそ、日頃の日常生活からの訓練が必要になります。具体的には、落ちていたゴミを拾う、積極的に発表する、大きな声であいさつする等、その訓練方法は無限大です。こういった、小さな積み重ねが心を鍛えていくのだと信じています。そして、これをやりきれぬ人達は、必ず応援してくれる人達がたくさんいます。

体操の内村航平選手がこんなことを言っていました。

「試合に勝てなかった頃は、優勝することばかり考えていました。しかし、自分の演技で見ている人を感動させよう」

と考え方を変えたときから、良い結果が出せるようになり、優勝することもできるようになったそうです。これは、心・技・体の土台となっている目的が明確になったからです。つまり、見ている人を感動させるためにという目的が変わったことで、心・技・体にも磨きがかかったのでしょう。

心・技・体の話でもう一つ興味深い話があります。それは、スポーツで学ぶ心・技・体ではなく、論語で学ぶ話です。柔道を指導している先生が、「柔道で心・技・体を鍛えれば立派な大人になれる」と言っていました。しかしある生徒が先生に、

「僕は柔道ができません。それでも、立派な大人になれるでしょうか」

と聞きました。するとその先生は、こんな話をされたそうです。

「柔道で学ぶシンは心だが、論語で学ぶシンは信用の信だ。そして、柔道で学ぶギは技だが、論語で学ぶギは正義の義、つまり人の道だ。それから柔道で学ぶタイは体だが、論語で学ぶタイは耐えることだ。つまり論語を学んでいけば人から信用される人間になる。この三つを備えたら立派な人間になる」

という話でした。この話を聞いた生徒は、その後、司法試験に合格しました。

しかし、スポーツをしなくても、論語を勉強しなくても立派な大人は、たくさんいます。それは、大人になり、歳を重ねながら知らず知らずのうちに、人として在り方を学んでいるからだと思います。人を信じるからコミュニケーションが上手くいきます。人や物、言葉にやさしくできるから、正義感も生まれます。すぐに諦めることなく、やり切ることで耐える力も身につきます。何事も経験が大切だということです。その経験の中に、失敗はつきものです。挑戦するから失敗もする、恥もかきます。それでも、少しでもいいから、前に進みましょう。

さて、オリンピックがやってきます。オリンピックに出場する選手がどんな戦い方をして、どんな想いで、どんな言葉を残すのか、とても楽しみです。ガンバレ日本！

